

主が求めておられること

ミカ書6章

主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか。(8)

この章ではイスラエルの民と主とのゆがんだ関係があたかも法廷で論じられるかのよう
に語られています。イスラエルの民は主に対する奉仕を重荷のように感じ、あたかも主が無
理な要求を突きつけておられるかのように不満をもちます。

これに対して主は、「わが民よ、わたしはあなたに何をなしたか、何によつてあなたを疲れ
させたか、わたしに答えよ」(3)と尋ねます。民の側に正当な答えなどありません。主は重
荷を負わせるどころか、彼らを奴隷となつていたエジプトから救い出し、憐れみをもつて導
き続けて来られたからです。そこで民は、何をもつて主との関係を正すことができるかと質
問します。数多くの雄羊をささげるべきか、それとも自分たちの長子をささげるべきかと。
ミカは、形を整えることばかりに心を用いて内実を失っている彼らの信仰に「ノー」を宣言
します。「主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだ
つてあなたの神と共に歩むことではないか」。真実な心で日々主と共に歩むことこそ、主が
神の民に求めておられることでした。人格的な命の交わりを主は求めておられるのです。
同じように、主がわたしたちに求めておられることは、どれだけ多くの奉仕をしたかでは
なく、生きておられる主を仰ぎつつ、主と共に歩むことです。